

皆静かにめしを食べている

片ちゃんばじゃ、歩くのが かつこ悪いので、右側の靴のかかとも、素早く、力いっぱい入れて、もぎ取った。それをオーバーのポケットに入れて、再び、すまして 歩く。

歩きながら、おかしくて、一人で にやにやしてた。

しかし、自分ながら 人の目の意識しすぎだなあと考えた。誰も、僕のことなんか、おかまいなしのはず。

いつもの道でなく、人通りの少ない道を 選んだ。

国道の下の もぐりトンネルをくぐり、細いたんぼ道を、一二三と、歩数を数えながら帰った。

歩数は もぐりトンネルから再び、もとの道に合流する市場の角まで 約百五十歩だった。

家に着くと、てるちゃんがいる。何やら、お母ちゃんと 仕事の話。

まんじゅう二つと食パンを食べながら、

釘を打って、靴にかかとをつけようとしたが、釘が長すぎて、靴底から 先が 飛び出して

抜こうとしても、ゴムで抜けない。 見えている。だまって、下駄箱の隅の奥に 押し込んだ。

そのあと、部屋にもどり、英会話テープの練習。

途中、下の居間から 兄貴と京太のどなり声。兄貴が 京太に 説教しているようだった。

それで、僕も心配になり、二度下へ降りた。